



# 日本女医会誌

復刊第 186 号  
2006 年 4 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### 意識の高揚に期待

副会長 加藤 竺子

多くの氷雪ドラマへの期待を抱いて北イタリアの古都トリノで第 20 回冬期オリンピックが開催されましたが、参加 80 ヶ国、世界の競争のレベルの高さを見せつけられる思いの毎日でした。そのなかでもフィギュアスケートに出場した荒川静香選手の銀盤上での華麗でスピードと表現の卓越した見事な演技のすばらしさ、そして金メダルの栄誉は日本女性の誇りとして心から祝福を捧げたい思いです。

さて、日本女医会も多くの課題を抱えながら、何としても持続可能な発展を目指し理事会を中心に努力を続けていますが、会員の増強はなかなか思うように効果が上がり苦慮しております。

公益法人として 5 月の総会までには素案をまとめて評議員会にお願いして、研修講演会を兼ねたブロック別の懇談会を計画し、女医会加入のメリットを

PR できたらありがたいと思います。

また、新卒会員の勧誘にインターネットを活用してホームページの充実に努め、100 余年の歴史を持つ日本女医会のアピールと勧誘につとめたいと思います。

日本女医会も公益法人の立場から独立行政法人福祉医療機構の助成を受け平成 13 ～ 15 年の 3 年度にわたり、「十代の性と健康」の教育、指導者養成事業を実施致しました。

引き続き平成 16、17 年度は「働く女性のための育児環境整備支援事業」を実施して、働く環境支援の一つとして病児保育の課題について、調査研修、講演会等を行い、いずれも女医会ならではの参加者にご好評を頂きました。

今後の計画の一つに幅広い女医会会員のための研修計画を考えています。何れにしても少子高齢化社会に女性医師としての役割は大きいので、時代に適合した研鑽を積んで医療福祉の担い手としての使命感を持って、安全安心の豊かな社会づくりに貢献して行かねばと会員皆様の意識の高揚にご期待申し上げます。

## 日本女医会誌 (第186号) もくじ

巻頭言	加藤 竺子	1
各部報告	庶務部 角田由美子	2
	会計部 濱田啓子	2
	事業部 村田 郁	3
	渉外部 中山真知子	4
	広報部 山本蒔子	4
	学術部 山本纈子	5
独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」助成による「働く女性のための育児環境整備支援事業」公開シンポジウム公開シンポジウムを開催して	斎藤加代子	6
利用者の立場から	大岡友子	6
家庭と病児保育をつなぐファミリーサポートの立場から	瓜生ふみ子	7
現状調査報告とワークショップの結果から	池谷紀代子	8
病(後)児保育の発展を願って	帆足英一	8
病児保育と私	保坂智子	9
東北大学に平成 13 年に開設された病児保育室の取り組みについて	佐々木潔子	10
公明党女性国会議員と意見交換	内潟安子	11

日本女医会「働く女性のための育児環境整備支援事業」が平成 16 年度 特に優れた事業と認められました	加藤 竺子	11
百歳を迎えられた日野千代子先生をお訪ねして	加藤光子	13
第 1 回「さいたま輝き荻野吟子賞」に平敷淳子先生	深井登起子	14
支部だより(東京都支部連合会)	中山年子	15
人間国宝・中村富十郎丈	赤塚智香	15
私の大学(大阪医科大学)	高井七重	16
単身留学体験記	大村佳代	16
私の好きな食べ物やさん②	二村芙美江	17
書評「My life work」	大坪公子	18
平成 18 年度「児童福祉週間」のお知らせ		18
理事会議事録(12 月、1 月、2 月)		21
会員動静		24
国際女医会議からのお知らせ	内潟安子	24
第 51 回日本女医会総会のお知らせ		24
編集後記		24

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大变身 <http://www.jmwa.or.jp>

## 各部報告

### 庶務部

角田由美子

#### 平成 15 年度

- ・総会（第 48 回）：東京都支部連合会担当、京王プラザホテルにて開催。橋本葉子会長以下新役員を選出。
- ・2004 年東京で開催される国際女医会議組織委員会の活動が活発に行なわれる。
- ・ブロック別懇談会（第 7 回）を開催（盛岡）。
- ・独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成を受け、“10 代の性と健康指導者養成講座”を各地で開催。第 4 回（横浜）、第 5 回（札幌）、第 6 回（盛岡）、第 7 回（岡山）、第 8 回（長野）。
- ・会員名簿発行。
- ・地震見舞い：秋田、岩手、宮城各支部。
- ・大雨見舞い：熊本支部。

#### 平成 16 年度

- ・総会（第 49 回）：青森支部担当、ホテル青森にて開催。7 月に東京で開催される国際女医会議の成功に向け一致団結をはかる。
- ・国際女医会議（第 26 回）：日本担当、京王プラザホテル（東京）にて開催（7 月 28 日～8 月 1 日）。30 ヶ国より 530 名の参加者があり盛会裡に終わる。最終日の総会にて次期会長（2007～2010 年）に平敷淳子理事が選出された。
- ・ブロック別懇談会（第 8 回）を開催（京都）。
- ・“10 代の性と健康指導者養成講座”（第 9 回）を開催（東京）。
- ・独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成を受け、“働く女性のための育児環境整備支援事業”を展開。病児保育の実態調査および研修会を開催（東京）。
- ・突風見舞い：佐賀支部。
- ・豪雨見舞い：福島、静岡、新潟、福井各支部。
- ・台風見舞い：広島、徳島、愛媛、高知、和歌山、長崎、千葉、静岡、岐阜、京都、兵庫、岡山各支部。
- ・地震見舞い：新潟、福岡、佐賀各支部。

#### 平成 17 年度

- ・総会（第 50 回）：愛知支部担当、ウェスティンナゴヤキャッスルにて開催。万博で賑わう名古屋で参加者みな元気をもらう。
  - ・ブロック別懇談会（第 9 回）を開催（前橋）。
  - ・国際女医会議西太平洋地域会議（第 8 回）に参加（フィリピン・マニラ）。
  - ・“働く女性のための育児環境整備支援事業”としてワークショップ（大阪）、と公開シンポジウム（東京）を開催。
- 毎年行う行事として、
- ・吉岡弥生賞の選定
  - ・学位取得者および医師国家試験合格者に対して、日本女医会の案内と入会のお勧め送付。しかし個人情報保護法のためこれらの名簿入手が困難になってきている。

16 年度の国際女医会議は、会員の皆様のご協力の下に大成功を納めた。各国の参加者からお礼の言葉が届いている。今後新たな目標に向かってさらなる飛躍が求められている所であるが、いつものことながら会員の増強がさらなる課題で、会員のお一人お一人のお力添えを切に望んでいる。

### 会計部

濱田啓子

平成 15 年から先輩の森川由紀子、船越由美子両理事と御一緒させていただき、会計を担当いたしました。理事会の諸先輩の御指導の下、大過なく一期を終えることが出来ました。

今期は、3 年に一度、世界各地で開催されている国際女医会議が平成 16 年 7 月、東京で第 26 回国際女医会議として開催されました。

28 年ぶりに日本で開催されるということで 100 周年祝賀行事終了直後から新役員の下、改めて組織委員会を結成し、平敷理事を事務局長として準備が開始されました。

昨今、多方面での会議が催される中、バブル崩壊後不況経済が続く折、当初からその資金調達が危ぶまれておりましたが、企業その他からの寄付も期待

薄の中、橋本葉子会長、石原幸子副会長、加藤竺子副会長、鹿田儀子副会長、平敷事務局長はじめ各理事の御努力と会員一同の御協力により結果的に限度内の赤字で乗り切ることができました。

おかげさまで国内外から500名余りの参加を得、緒方貞子氏の基調講演、皇后陛下の行啓を仰ぎ、また各界名士の御臨席をいただき、国際親睦、医学情報の交換等、予定されていたプログラムが着実に遂行できましたこと、改めて会員の先生方に心から感謝を申し上げます。

平成19年度には第27回国際女医会議が、ガーナで平敷理事を会長に開催される予定です。

こういうプログラムを考えみても、日本女医会が更にその存在意義を高め発展していくことが肝要と思われまます。

また新潟地震の際には突然のお願いにもかかわらず、皆様のご賛同を頂き義援金を送ることができました。誠にありがとうございました。

昨今の社会状況の下、会費の納入率はおかげ様で上昇いたしておりますが、会員数の伸び悩みにより、その資金は目減りしているのが現状です。各部の先生方には事業推進の上でより有効に財源が活用されます様、御協力をお願いいたします。

また、会員の先生方から納入されます会費は頼みの綱であり、基盤です。会費納入がされず自然退会となられる会員もおられる現状です。納入をお願いし、今後の会の活性化のためにも、会員増強にむけての御協力、御支援を重ねてお願い申し上げます。

## 事業部

### 村田 郁

事業部は石原幸子副会長のもと、平敷淳子、山崎トヨ、村田郁の3委員で平成15年6月より平成18年3月まで、下記の事業を継続しながら担当致しました。

#### 1. 公衆衛生活動

①平成15年10月4日(土) 福岡市・福岡市子ども総合センター「えがお館」において「思春期の性と心」開催。

「若者の性行動の現状」 劔 陽子先生

「私たちの性と生をみつめて」

竹下小夜子先生

「性の問題へのピアカウンセリング」高村寿子先生

②平成16年7月4日(日) 札幌市・札幌医科大

学臨床講堂において「荻野吟子に続く女性医師たちPART2 北海道の女性医師、今、昔」開催。

『北海道女性医師史』中に記載された先駆者達の記述について」 広瀬玲子先生

「戦前期女子医専卒業の女性医師たちに聞いて分かったこと(中間報告)」 海保洋子先生

パネルディスカッション

「女性医師の現状、今、昔」 司会：北室かずこ  
スピーカー：三谷桂子 山中政子 斯波憲子 藤井美穂 長峯美穂 原田さやか

③平成17年1月8(土)～10日(月) 札幌市・

札幌医大臨床講義室において「思春期教育をめぐるネットワークのあり方」開催

「若年女性の妊娠の現状と課題」 杉山厚子先生

「北海道の性感染症の現状と課題」 小林玲子先生

「ネットワークづくりの理論と方法」

高須喜久男先生

「摂食障害と虐待の現状と課題及びネットワーク」

前垣よし乃先生

「若者の薬物乱用の現状およびネットワーク」

木下秀夫氏

「性感染症と思春期男性への性教育の実践」

堀田浩貴氏

④平成17年1月23日(日) 長野市・長野県社会福祉総合センター講堂において「十代の性と健康 —十代の生と性と死—を考える」開催

「思春期の性と死」 小林正信先生

「性教育の現場より」 竹内未希代氏

「ピア・カウンセラーの現場から」 渡邊智子先生

「エイズ・HIVの現場から」 齊藤 博氏

「コーディネーター」 川田龍平氏

⑤平成17年3月26日(土) 仙台市・宮城県医師会館において開催

「女性のための紫外線対策」 花田勝美先生

2. 荻野吟子賞 応募無し

3. 医療奉仕へ助成 応募無し

4. 収益など

①平成15年5月17日 定時総会時バザー開催。  
103,000円収益

②平成16年5月15日 定時総会時出店収益、  
103,300円。

③平成16年7月28日～8月1日 国際女医会議にて出店収益、267,089円

④国際女医会コンgresバッグ(東京都支部連合会紹介)、その他販売

国際女医会ピン、日本女医会ピン、日光彫手鏡（事業部案）

- ⑤雑誌発行 平成15年「ゆうゆう糖尿病」、平成16年終刊
- ⑥支部助成 各年度会費納入者1名につき200円助成
- ⑦風土社編集月刊誌「いきいき」原稿執筆の協力。順調に進行中。

事業は年ごとに着実に活発に活動しております。ご協力下さいました各支部に御礼申し上げます。

## 渉外部

### 中山真知子

平成15年度から17年度において渉外担当理事が出席した会議は次の通りです。

- ①国連 NGO 国内婦人委員会の加盟団体として「国連総会報告会」「日本・中東女性交流シンポジウム、外務省主催パーティー」。
- ②市川房枝記念会維持団体として「国の女性関係予算案を聞く会」。
- ③国際婦人年連絡会の加盟団体として「環境委員会」など関連会議。
- ④総理府男女共同参画局「男女共同参画連携会議全体会」「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰者との懇談会」「男女共同参画担当大臣との懇談会」。男女共同参画推進連携会議（えがりてネットワーク）委員として「女子差別撤廃条約実施状況報告書に盛り込むべき事項について聞く会」など種々の会合にて意見を交換。
- ⑤厚生労働省「健やか親子21推進協議会」の協力団体として「健やか親子21全国大会」。
- ⑥各団体との交流の一環として日本医師会主催男女共同参画フォーラム。働く女性のための育児環境整備支援事業ワークショップ「病児保育を考える」「全国病児保育研究大会」。
- ⑦国際交流として、ノルウェー大使館「シンポジウム男女共同参画社会の未来戦略」ハテイヤラ、チュニジア女性連盟総裁との懇談会。内容は主に働く女性のための育児環境についての意見交換。

男女共同参画・健やか親子21・働く女性のための育児環境整備・病児保育・女子差別撤廃条約・トラフィッキング（人身売買）・経済のグローバル化、これらは全て関連している問題であることを痛感し

ました。この21世紀に先進国途上国を問わず女子差別が厳然と存在し、この問題について全く無知であったことを恥ずかしく感じた次第です。これらの運動を自分自身の問題として受け止め、関わって行きたいと考えております。

## 広報部

### 山本蒔子

広報部の主な活動は日本女医会誌の年4回（1月、4月、7月、10月）の発行です。

日本女医会誌は、2004年の4月25日発行の178号から大きく変わりました。今までの縦組から、横組に変え、会員が読みやすいように字のサイズを大きくし、英文やカナ文字にも対応しやすくしました。また、永年お世話になっていた金剛出版の淵上様のご逝去されたこともあり、制作をあづま堂印刷（株）に変更してスタートしました。

2004年7月に開催されました第26回国際女医会議は、日本女医会が2002年に迎えた創立百周年の記念行事の集大成であることから、上質紙を使い、内容を多くの写真と共に報告しました。この号は特別に179号と180号の合併号として11月に発行しました。ビデオも作成し記録として残しております。

日本女医会の取り組んでいる中心的な活動である「10代の性と健康」や「働く女性のための育児環境整備支援」等のプロジェクトがどのように行われているかを、随時記事にしています。支部の活動がより活発になるように、ブロック会議や支部報告を取り上げています。先輩女医の活動の軌跡を多くの方に読んでいただけるように、会員の著作を紹介しています。このように、活動をもらさず伝え、記録を残していくように配慮して編集をしております。

日本女医会の吉岡弥生賞、荻野吟子賞及び、地域医療奉仕活動への助成や学術研究助成についてのご案内をまとめて、分かりやすくして、最後の頁に掲載するようにしたことも新しくなった点です。

広報部はまた、女医会のホームページも管理しております。内容の充実をはかり、更新も迅速にするようにしておりますので、会員の皆さんに是非ご覧頂きたいと思っております。

この3年間いくつかの新しい試みをしましたが、担当理事の大坪公子、山崎康子、山本蒔子の3名が力を合わせて仕事をしてきました。編集会議には、橋本葉子会長や鹿田儀子副会長がご出席され、いつ

もアドバイスを頂いております。事務局の霜田さんにもたいへんお世話になっております。今後も、会員の皆さんに喜ばれる日本女医会の広報誌であるように願っております。

## 学術部

### 山本 纈子

学術部は橋本葉子会長のもと、内潟安子、斎藤加代子、山本纈子のメンバーで平成15年4月から同18年3月まで担当致しました。

この間、学術研究助成、学術講演会などの定期的な活動の他、平成16年8月には国際女医会議が開催され、サイエンティフィックプログラムやランチョンセミナーなどを担当し、平敷淳子理事とともに会員および海外から参加下さった方々に有意義な情報をご提供できるよう努力致しました。

学術研究助成としては平成15年度には竹宮孝子先生（東京女子医科大学）、田村悦代先生（埼玉医大）、矢口有乃先生（東京女子医科大学）、16年度には平井みさ子先生（筑波大学医学部）にそれぞれの研究の発展を願って授与いたしました。17年度には上田嘉代子先生（東京女子医科大学）、塚田弥生先

生（日本医科大学）、増子佳世先生（筑波大学医学部）を選定いたしました。

学術講演会では平成16年1月17日に「日常診療におけるリスクマネジメントのポイント」と題して梅澤昭子先生（東北大学病院医療安全推進室・副室長）、平成17年1月15日に「女性のメンタルヘルスと女性外来」と題して加茂登志子先生（東京女子医大・女性生涯健康センター所長）、平成17年10月22日に「睡眠障害の臨床」と題して伊藤洋先生（慈恵医科大学青戸病院副院長）の諸先生に素晴らしい講演を戴きました。今後も年数回は共通したテーマで講演を予定いたしておりますので多くの会員の参加を期待いたしております。

その他学術部が支援した研究として関西医科大学、慶応大学医学部、昭和大学医学部、東京医科歯科大学医学部、東京女子医大、東邦大学医学部、日本大学医学部など7大学に協力戴いて卒後10～15年の男女医師3324名にアンケート調査を実施し、荒木葉子先生に「卒後11～15年目医師の労働実態に関する調査結果報告」としてまとめて戴きました。

今期は特に国際女医会議で学術部も特別な企画がありました。今後、部の発展を願って会員の皆様からの新企画など期待されるところです。



## 大きなハートが躍動しはじめました。

世界第3位、ヨーロッパ市場第1位の製薬企業サノフィ・アベンティスグループは、  
世界で年間5000億円超を新薬開発に投じ、循環器、血栓症、がん、  
糖尿病、中枢神経系、内科系、ワクチンの7つの治療領域に注力しています。

### サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿3丁目20番2号 東京オペラシティタワー  
[www.sanofi-aventis.co.jp](http://www.sanofi-aventis.co.jp)



独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」助成による  
**「働く女性のための育児環境整備支援事業」**  
公開シンポジウム

## 公開シンポジウムを開催して

理事 齋藤加代子

平成16年より独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて行って参りました「働く女性のための育児環境整備支援事業」の2年間の集大成として、平成18年1月22日に、公開シンポジウム「病児保育の未来へ向けて」を女性と仕事の未来館で開催致しました。

参加者は135名。前半は「利用者の立場から」を大岡友子氏、「病児保育の現状調査報告とワークショップの結果から」を池谷紀代子委員、「家庭と病児保育をつなぐファミリーサポートの現場から」を瓜生ふみ子氏、「病児保育の現状と課題」を帆足英一委員の4名から講演を頂き、後半は帆足英一委員と齋藤加代子の司会でパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、病児保育施設の保育士、看護師から、施設内での点滴の可否、かかりつけ医師との連携、施設内での感染の不安等に関する意見や質問が出されました。また、保育士の研修制度、労働の保証等の質問があり、国の基本姿勢における子育て事業の充実と安定的雇用を整えることが、利用者と病児保育施設との相互の安心感につながり、病児保育担当者の教育研修は今後、さらに確立されるべきであるとの方向性も出されました。



この2年間の活動で病児保育に関して色々な点が見えてきました。これからいかにして「病児保育を発展させ、未来に向けていくか」が大きな問題となります。少子化が止まらない現実の中で未来を背負っている子ども達を大切にしていかなければなりません。そのためには働く女性の支援、子ども達への支援が大切であります。日本女医会としても今後、さらに努力していかなければならないと思いました。

## 利用者の立場から

千葉市に病児保育所をつくる親の会代表 大岡友子

### 1. 病気の子どもと親をとりまく社会環境

～この10年間で変化はあったのか～

#### (1) 子供が病気の時の対応

この10年間、病気の子どもは「母親が仕事を休んで看病する」という割合が約8割と圧倒的に高い状況には変化がない。実際に病（後）児保育施設のある地域でも、当該施設利用は1割程度である。

#### (2) 保護者の就労環境（休暇の取得など）

各種の調査結果より、母親が子どもの看病のためしばしば仕事を休むことで仕事をやめざるをえなくなった、という回答は3割超である。また仕事を続けていても、すべての就業形態において、母親が子どもの看病のために仕事を休むことで待遇等に不都合が生じていることも示されている。看護休暇の取得は近年徐々に増加しているが、制度の整備とともに運用面での実効性が求められる。

### 2. 子育てと仕事の両立支援策として必要なもの

看護休暇、勤務時間短縮を中心とする働き方に関する制度の整備と、病児保育の拡充を求める声が多い。今後、社会制度の整備と、「母親中心」の子どもの看護を「両親」が対応するように、子育て中の親を含む社会全体の意識改革を進め、子どもの看護のために「両親」が仕事を休みやすい社会の実現が必要である。

### 3. 病児保育に望むもの

アンケート、ヒアリング等の調査より、保護者の病児保育に対する希望は以下の4点であるといえる。1. 自宅から近い、2. 開所時間が弾力的、3. 預かってもらえる病状の基準が硬直的でない、4. 小児科医師のバックアップによる安心・安全の確保。地域に複数の病児・病後児保育施設が点在し、かつ、病児・病後児保育施設間の連携、医療機関との連携、保育所・幼稚園との連携等、地域のネットワークが構築されることが望まれる。

### 4. 病児保育の未来に向けて

#### (1) 社会制度の整備と病児保育の方向性

看護休暇が定着し仕事を休みやすい社会が実現した後も病児保育の必要性は変わらず、むしろより切実な状況において病児保育が必要とされるようになると推測する。「突然」の子どもの病気に仕事の調整ができないという事態は完全にはなくなならない。子どもを受け入れる病状の基準が硬直的であれば、病児保育が存在する意味がないということになりかねない。究極的にはすべての病児・病後児保育施設で急性期でも対応可能であることが求められるようになるものとする。

#### (2) 子どもを育む家庭の支えとしての病児保育

子育てと仕事の両立には日常でも体力・気力が要求され、さらに病気の子どもの看病が加わると、親も限界を超えてしまう。親が崩壊すれば子どものためにもならない。一人親家庭では、子どもの看病で仕事を休みがちであるため職を失うようなことになれば、家庭そのものが崩壊する。親の心理的・経済的状态、それが子どもに与える影響も考慮する必要があると考える。「子どもを育む家庭ごと支える」という観点で「子どものための、子どもを中心とした病児保育」が必要である。

#### (3) 派遣型サポートのニーズと課題

新しい病児保育の形態として派遣型サポートが拡大されつつあり、施設型では困難な緊急対応と開始時間帯のズレへの対応が可能な点でニーズが高い。一方で密室での保育であり、保育者への教育、小児科医師等の医療的バックアップ体制の整備により、安心・安全の確保が重要な課題である。

### 5. 最後に一親からのメッセージ

病児保育は、未来に向けても子どもの病気で危機

に陥っている親と子を包んでくれる究極の子育て支援であり続ける。子育て中の親の立場から、今後ともこのメッセージを社会に発信し続けたい。

## 家庭と病児保育をつなぐファミリーサポートの現場から

NPO 法人 CCCNET 代表理事 瓜生ふみ子

現在、厚生労働省のファミリーサポートセンターは全国約430カ所に及び、都内では40カ所が活動しています。このサポートは、子どもを預かってほしい人と子どもを預かってくださる人の相互援助サービスであり、町田ファミリー・サポート・センターは全国で初めて2000年10月よりNPO法人が運営している。現在、依頼会員（子どもを預ける人）が約1,800名、援助会員が約700名となっており、都内でも会員数の多いセンターで、利用に関しても月間約1,100件あり、中でも、保育園・幼稚園等の送迎及びその前後の預かりが主流を占めている。

しかし、少数ではあるが、病気時の保育も年々伸びており、働く女性の増加とともに環境の整備が気になるところである。そこで、今年度より厚生労働省では、病児・病後児・お泊りに対応する「緊急サポートネットワーク」をスタートした。東京では、私どもが真っ先にスタートすることになり、3月のサービス提供に向け現在奮闘中である。システムは現在のファミサポとほぼ同様なものであるが、緊急サポートネットワークを進めるにあたり、問題点がいくつか見えてきた。

1に、保育士、看護師などの有資格者スタッフの確保の難しさ。2に無資格者における教育として、専業主婦がほとんどで、自分の保育しか経験がないが、サポートする意欲はある。3にかかりつけ医との連携として、親でないものの付き添いに対する抵抗や病気の経過を把握しにくいこと、急変したときの心配。4に利用者からの問題点として、母子家庭の経済的支援やたらい回しにされないワンストップサービスの提供と仕事と親との責任の狭間でのストレス。5、最後に子育ての社会化としての社会的認知（病気のときまで預けることへの非難）などがあげられる。

## 現状調査報告とワークショップの結果から

東女医学内支部 池谷紀代子

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成を受け、日本女医会は平成16年度から2年間にわたって働く女性の育児環境整備支援事業として病児保育について現状調査と様々な形の勉強会を開催してきた。

16年度は全国保育園保健協議会と日本病児保育協議会の加盟施設と利用者に対する病児保育に関するアンケート調査、および研修会の開催、17年度は病児保育施設を訪問してのヒアリング調査とワークショップ、シンポジウムである。

施設のアンケート調査では保護者の職場での育児支援体制が乏しいこと、病児保育施設整備や財政が問題点としてあげられた。設置形態別では、保育園併設型では、症状の把握、急変時の対応、小児科医との連携について、医療機関併設型では財政的なことや子どもの心理面のケアについて、問題を感じていた。利用者はやむを得ず病児保育を利用しているが、利用した場合の満足度は非常に高かった。

ヒアリング調査では全国の13施設を訪問し、実際の保育従事者にインタビューした。設置形態別では、医療機関併設型7、保育園併設型1、単独型1、乳児院併設型1、派遣型1、大学病院内施設2であった。急性期から保育する施設では利用実績が高いが、対象疾患を限定している施設の利用者は少なかった。行政からの補助金と利用者からの料金だけでは運営できず、利用者が増加するほど赤字が増加することが最も問題であった。派遣型と大学病院内施設では、行政の補助がないため利用者負担が大きくなっていった。利用に季節変動が大きいこと、キャンセルが多くスタッフの確保が難しいことも運営をきびしくする要因となっていた。利用者には病後児だけでなく病児も預かって欲しい、との希望が高く、安全な病児保育のためには小児科医のさらなる関与が必要である。保護者の問題点としてお迎えの遅れや連絡がつかないこと、キャンセルの連絡がないことがあげられた。

ワークショップは2005年11月13日、大阪にて開催され、全国から186名が参加した。参加者全員が10のグループにわかれ、①保育士の看護学習、②看護師の保育学習、③利用者への教育、④財政基

盤の確保と行政に期待すること、⑤病児保育の充実のためにできることの5つから事務局が指定した1つのテーマについて、現状、最終目標と理想、身近な目標、そのために今できること、最終目標を達成するために必要なことを話し合い、発表した。全テーマを通じて、スタッフ同士、病児保育施設間、保護者や医療機関とのコミュニケーションと、利用者、一般の保育士や看護師、医療機関、一般社会へむけての広報活動の重要性が強調された。

病児保育は経済効率の悪い事業であるが、非常に重要で必要性の高い育児支援策である。質の高い病児保育のために、より積極的な医療の関わりと、行政の支援を求めて行く必要性を感じた。

## 病（後）児保育の発展を願って

ほあし子どものこころクリニック院長

全国病児保育協議会顧問 帆足英一

昭和44年4月、高度経済成長期にあつて、枚方市の香里団地の働く母親は、勉強会での成果を市民運動として結実させ、その要請のもとで枚方市民病院分院内に、保坂智子医師が日本における初めての地域センター方式である「枚方病児保育室」を開設した。働く母親にとって、自分の子どもが病気をした際には、もちろんのこと仕事を休んで子どもの面倒をみたいのである。しかしながら、それが出来ない様々な仕事上の都合の中で、ほとほと困りきった上での方策であったと思われる。

その後20数年を経た平成3年に、厚生科学研究の課題として「小児有病児ケアに関する研究」班（班長：帆足英一）が発足し、この研究班の報告等を受けて、厚生省（当時）は「病児デイケアに関するパイロット事業（7施設）」をスタートさせ、7年に「乳幼児健康支援デイサービス事業」として国の本格的事業となり、平成10年には、事業名が「乳幼児健康支援一時預かり事業」と変更された。

病（後）児保育室の事業所数は、平成3年にはわずか14施設であったものが、平成17年6月末現在、474施設に急増した。また、タイプ別みると、診療所や病院など医療機関併設型が272施設（57.4%）と、全体の約6割を占めている。一方、平成12年度からスタートした保育所併設型は135施設（28.5%）に増加し、単独型16施設、乳児院等の児童福祉施設併設が26施設、その他25施設と



なっている。

病（後）児保育室の職員配置は、子ども2名に職員1名、定員4名の場合には、看護師と保育士の2名で病児4名の保育看護を行っている。病（後）児保育室の年齢別利用人数（実績）をもとに、保育所なみの定数に換算すると、約7対1（子ども7人に保育士1名）となっており、病（後）児保育室では保育所の3.5倍の手厚い職員数のもとで保育されていることに留意する必要がある。通い慣れた保育所と異なる環境で、しかも病気をしている病児のケアを考えたとき、病気を癒し早期の健康回復のためには、スタッフがゆとりをもって一人一人の病児を十分に受容できる体制を整備することが不可欠である。そのために2対1という保育所では考えがたい手厚い人的環境が整備されているのである。

病児保育（乳幼児健康支援一時預かり事業）は、診療所等医療機関や乳児院、保育所等の児童福祉施設における付帯的事業から出発しており、そのため、補助金が低額に抑制されている。国による病児保育制度（乳幼児健康支援一時預かり事業）は、発足して10年を経た。この機会に、従来の不採算事業から採算性のある病児保育事業に転換し、真の「子育て支援・健康支援事業」として、地域において発展、定着させていくことが求められている。そのためには以下の改善が求められている。

- ①診療所等の医療機関や保育所、乳児院等の児童福祉施設の付帯的事業から独立した事業への転換
- ②事業補助単価の全面的な見直し
  - ◆保育所型のみならず全ての病（後）児保育室に、指導医や嘱託医手当てを予算化すること。
  - ◆看護師のみならず保育士も、常勤採用が可能となる補助額とすること。
  - ◆利用が1,000名を超える場合には、必然的に非常勤スタッフの増員を余儀なくされるため、補助額の増額を行うこと。

一方、子どもの看護休暇制度は徐々にではあるが普及、定着してきた。しかしながら、看護休暇制度がいかに充実しても病児保育制度の必要性が消失するわけではない。したがって、病（後）児の権利擁護に配慮しつつ、看護休暇制度と病児保育制度とが調和的に発展していくことが望まれている。

参考書：帆足英一監修「必携・新病児保育マニュアル」（全国病児保育協議会編）平成17年4月

申込みは全国病児保育協議会事務局へ（FAX 097-568-2970）

## 病児保育と私

大阪第7支部 保坂智子

1969年（昭和44年）4月1日、私達は保坂小児クリニック（枚方市香里団地内）の第2診察室に隣接する一室に5ベッドの病児保育室（当時）を設けて保育所へ行く子ども達の病期の看護と保育を始めた。あれから37年が過ぎようとしている。年間約1,500人、延べ計約5万3千人余の子ども達を母親達の心を汲みながら見守り育てた。

私自身故郷を離れて（愛知県犬山市）来阪し、基礎医学を専攻する夫をたすけ3子を育てながらの取り組みは、働く母親達（教師、ナース、保母、弁護士、その他のコメディカルスタッフ、会社員、公務員）らと手を取り合って不退転のものであった。

医師会内部で理解を得ること、行政の理解を得ること、地域の理解を得ることを大切に、機会ある毎にペーパーを書き、市、府に足を運んだ。当時、香里団地というところは今も語り草になっている東洋一と言われた戦後の住環境で入居基準、所得基準が高かった。若い入居者は戦後の教育を受け男女共学を経験し、女性も働く意識に目覚め共働きをつづけていた。また、共働き家庭の多くが故郷を離れて住む地であった。そのため住民運動が活発でリーダーシップをとるのは当時京大の助教授クラスの方達、香里文化会議と銘うっているいろいろの提言をされ、枚方市に新風を吹き込んでおられた。アメリカのロバート・ケネディ氏（当時司法長官）が日本視察の折、新しい日本の住宅地として香里団地が選ばれ立ち寄られたいきさつを思い出す。

私達はすでに病児保育を始める7年前、団地内に新しい公立保育所作りを果たし、乳児保育、延長保育が始まっていた。公立全保育所の乳児クラスにはナースが配されていた。枚方市で病児保育開始5年後には隣市寝屋川市でも病児保育が開始され、また、その5年後、枚方市はその利用児の多さに市民病院内に5ベッドの公立病児保育室を新設、前後して私達の病児保育室も8ベッドに増床した。

1991年（平成3年）、私は大阪での先輩、恩師の大原一枝先生、野呂幸枝先生（共に日本女医会元副会長）のご推挙をうけて病児保育に関して吉岡弥生賞を受賞させていただいた。丁度このことが子ども達への幸運の呼び水になったかのようにこの頃から病児保育は国の子育て支援の施策としてとりあげら

れるようになった。

平成3年3月、国の「これからの母子医療に関する検討会」のメンバーによる視察を受けたのを皮切りに、「有病児デイケアに関する研究班」がつけられ「パイロットスタディ」「モデル事業」として検討され、1995年（平成7年）より始まった国のエンゼルプランの中に病児保育は「乳幼児健康支援サービス事業」として女性の就労支援、少子化対策の一環として組み込まれた。平成3年頃、厚生省母子保健課の課長補佐北井暁子先生（東京女子医大卒）のお骨折も忘れられない。

一方それまでに全国各地で個々に始まっていた病児保育室に呼びかけ全国病児保育協議会を作り、病児保育の研究調査、専門性を高めるための研修会を開催した。これも平成3年9月よりのことであった。以後15年、年2回開催されていた研修会は一昨年より年一回の研究大会となった。本年は久しぶりに大阪に還り、7月16日、17日の両日にわたって中之島公会堂で開催される（会頭中野博光先生）。また、厚労省の依頼により編集された病児保育マニュアルも改訂3回（監修帆足英一先生）に及んでいる。

日本女医会では2004～2005年にわたって「働く女性のための育児環境整備支援委員会」を組織され、病児保育についての講演会、ワークショップ、公開シンポジウムを開催していただいた。昨年11月13日、大阪でのワークショップでは募集150名に200名近くの参加者があり盛況であった。

昨今、私達は病児保育で育った子ども達が結婚しその子ども達を受け入れるようになった。我が子を抱えてかつて自分が通った病児保育室に入って目を潤ませる子ども達、病児保育があつてよかったと即座に答える子ども達、私自身もライフワークとして取り組んだ病児保育の日々を思い返し歴史を刻んだ保育室でスタッフと共にあらためて「明日の病児保育」について語り合う日々である。

## 東北大学に平成13年に開設された病児保育室の取り組みについて

宮城支部 佐々木潔子

「東北大学医学部教室員会」では、平成9年8月に、保育の現状と、院内保育所設置に対するニーズ調査の目的で、アンケートを行いました。約1,100名に調査表を配布し、449名から回答を得ました。回答

率は40.8%、回答者の内訳は、男性234名（52.2%）、女性215名（47.8%）。職種は、医師230名、看護師150名、検査部14名、薬剤部20名、その他35名でした。年齢分布は、20歳代が13.7名、30歳代49.8%、40歳代が28.5%、50歳代が8%、60歳代が0.5%でした。回答者449名のうち、「未就学のお子さんがいますか」の設問に、220名（49.0%）が「います」と答え、残りが、「いない」と答えました。

アンケート結果の詳細は残念ながら省きますが、自由記載欄から、乳児保育・延長保育・病児保育の、3つの要望が明らかになりました。「保育問題検討小委員会」としてグループで活動を続けることになり、ハローページから、大学病院周辺の認可・無認可の（乳児から受け入れている）保育園を拾い読み、周辺地図に印をつけ、グループのメンバーは調査票をもって手分けして聞き取り調査を行いました。丁寧に乳児保育をしてくださる無認可保育園（24時間営業を含む）が、複数個所存在することを肌で感じました。さらに、延長保育のみの保育所として実施することは困難であるという理由で、「病児保育をターゲットに」という言葉をかかえて、平成9年秋から毎月1回のミーティングを粘り強く続けました。病院長への要望書を提出し、グループ活動は実を結び、平成13年2月に病児保育施設の開設にこぎつけました。

今になってこのプロジェクトが成功した理由を思い返してみます。①男女共同参画基本法の施行時期の直前であったこと。②トップダウンの決断と、ボトムアップのパワーが協調したこと。③東北大学医学部教室員会という、50年以上の歴史をもつ1,000名ほどの団体の、人材的・経済的・ネットワークの強力なバックアップがあったことです。

病児保育施設の概要ですが、スタッフは、看護師1名、保育士1名。開設時間は、朝7:30から午後18:00まで（現在は17:30まで）。定員は4名、星陵地区に勤務する職員・学生に利用を限定したクローズドの施設です。利用登録料7,000円、1回利用料3,000円。昼食はスタッフが準備。かかりつけ医から連絡票。病児保育マニュアル（全国病児保育協議会編）に沿って、各種書類を整備して看護保育を実施しています。年間利用児数、疾患の内訳などは、別の機会にご紹介いたします。利用した（主に）女性たちからは、学位取得・就職など感謝の言葉が寄せられています。

さて、現在、私は地域医療にたずさわる傍ら、東北大学地域医療システム学講座（宮城県寄付講座）研究員として学業を続けています。医療需給システムの観点からは、割合の増えてきた女性医師の活用が大きなポイントです。独身で、あるいは結婚しても子どもの有無にかかわらず仕事を続ける、という選択肢のほかに、内科外科や麻酔科などのドクターと結婚し、彼らを支えるために退職した女医の、影なるサポートも、とても大切と思います。彼女らが、今後実施される再就職目的のトレーニングシステムを受講し、さらに復職を果たすことは、大きく望まれるのですが、それがご本人の意思であることが何より大切です。心配なのは、頑張りすぎて燃え尽きてしまう可能性です。もっと自信をもつてのびのびと仕事を、そしていきいきと幸せに過ごす方法を考えていきたいと思っています。

最後になりましたが、グループ活動を支えてくださった全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

## 公明党女性国会議員と意見交換

理事 内潟安子

日本女医会がかねてより計画し、厚生労働省からも打診されていた女性医師バンク（仮称）の構築およびその運用であったが、昨年12月20日に厚生労働省主導の医師再就職支援事業が日本医師会に委託されると公表された。

日本女医会独自の女性医師バンクはすでに立ち上がっているわけであるが、厚生労働省も女性医師の再就職に注目し出したことに注目し、日本女医会の経験を活かした女性医師のための事業を日本医師会とは別に展開できないかと考えていた矢先、公明党高木美智代衆議院議員から女性医師再就職問題について、日本女医会の見解を伺いたいという連絡が、昨年末に入った。急な話であったため、橋本会長と内潟だけが高木議員と意見を交換することとなった。

これをきっかけに、日本女医会のこれまでの経験を活かした、女性医師の再就業に向けての人材バンク構想を含めた「女性医師環境整備事業」構想を企画し、理事会で承認していただいた。その後、高木

## 社団法人日本女医会「働く女性のための育児環境整備支援事業」が平成16年度 特に優れた事業と認められました

副会長 加藤竺子

独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」助成による社団法人日本女医会「働く女性のための育児環境整備支援事業」が平成16年度特に優れた事業と認められ、高い評価を受けたことは日本女医会としても喜ばしく、事業としての確かな問題把握をした大変有意義な事業であったと考えています。今後とも継続してその充実に努力しなければ、との意を強くしております。

働く女性、特に医療関係に携わる医師、看護師、保健師等の働く環境整備は大事な課題であり、特に仕事と育児をよりよく両立するためには適切な支援体制の充実が不可欠と思います。

乳幼児期の子どもは急な発熱をはじめ疾病罹患が多くて、適切な看護が必要にもかかわらず、仕事を休むことができない場合もあり、病児（病後）保育の充実は働く親にとって必須の課題です。こうした視点から病児保育の現状把握のため、アンケート調査、解析を行い、調査内容を報告書にまとめ、関係

機関等に送付致しました。さらに実際に病児保育に携わる医師・看護師・保育士等を対象に研修会を開催致しました。

この度独立行政法人福祉医療機構より評価できる点として挙げられたのは、綿密なアンケート調査により、医療・保育関係者の立場がうまく活用されている点ではなかったか、と思います。実態が十分に把握されていない病児保育の状況について、かなり広範な情報収集が得られ、又経営面や医療法上の問題等想定されていなかった課題なども浮上させることができ、さらに研修により現場の高いニーズが確認されたという点でした。

こうした実績から平成16年度737万円の助成金に続き、平成17年度も事業は継続することができました。

ご協力頂きました会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

美智代衆議院議員を通じて、公明党「女性の健康支援推進女性委員会」と公明党「男女共同参画・人権擁護推進女性委員会」のメンバーとの意見交換の場をもちたいという申し入れが2月初旬に届いた。

国会開催中の超多忙な中、やっと日程が決まり、2月24日の午後2時半から約1時間の意見交換の場が決まった。

日本女医会事務局は関係の役員全員にお声をかけたが、なにしろ急な話であり、また日程も変更されたりと、当日参加できるメンバーも二転三転したが、最終的に日本女医会からは、橋本葉子会長、石原幸子副会長、澤口彰子理事、斉藤加代子理事、それに内潟が出席できた。公明党からは、浜四津敏子公明党代表代行・参議院議員、松あきら経済産業副大臣・参議院議員(公明党女性局長)、古屋範子衆議院議員、高木美智代衆議院議員、浮島ともこ参議院議員、鰐淵洋子参議院議員が出席された。

浜四津敏子公明党代表代りの挨拶の後、出席された議員を紹介され、次に橋本葉子会長がどの党であれ、女性の職場の代表としての女性医師の環境整備に人力を尽くしてほしいと挨拶され、出席したメンバーが紹介を兼ねて日本女医会の活動を各々説明した。

その後、内潟がこのたびの要望書「女性医師環境整備事業」を説明した。出席の議員は熱心に要望書にマーカーをひいたり、印をつけて聞いてくださった。その後理解が少し困難な箇所が質問としてあげられた。開業医の立場から、勤務医としての立場から、女性医師の環境がまだまだ整備されていないところが異口同音に発せられた。議員の皆さんも、女性が社会で活躍するには妊娠、出産、子育てが大きなハードルになっている環境は昔と依然として変わっていないという見解を出され、これが解決されなければ、ひいては少子化問題はけっして解決されないだろうと結論に達した。

今後先送りできない問題として、同じ女性として尽力したい旨の公明党代表代りの言葉で、意見交換の場は締めくくられた。

.....  
**関係閣僚および議員へ  
提出された要望書**

**はじめに**

2006年度より、医師再就業支援事業が厚生労働省主導の基に実施されることが2005年12月20日

(火)に公表されました。

本事業は、2005年6月に厚生労働省から女性医師バンク(仮称)の構築及びその運用を社団法人日本女医会(以下日本女医会と略します)に委託したい旨の打診がありました。女性医師バンクは日本女医会でも独自に立ち上げておりますが、全女性医師のデータではありませんので、是非委託先に選んでほしいと願っておりましたが、最終的にはこの事業のすべてを社団法人日本医師会に委託することを厚生労働省は発表されました。

女性医師バンクのことは日本医師会にお願いしたいと考えておりますが、この機会に、女性医師の再就業に向けての人材バンク構想を含めた『女性医師環境整備事業』について、お考えいただきたく、ここに要望書を作成した次第であります。

**女性医師環境整備事業を提案する理由**

日本医師会とは別の事業を提案する理由は以下のごとくであります。

1. 女性のキャリアの中で、女性医師は仕事のキャリアと最新の医学を年々蓄積していかなければならないこと、日中及び夜間勤務は男女平等であるという勤務体制である等、他の職種よりも厳しい環境下にあります。女性医師の働く環境が整備されれば、このシステムは他の業界の女性の社会参画への困難を克服することができると考えられます。
2. 近年、勤務医の日本医師会会員は増えてきてはおりますが、依然として日本医師会会員は開業医が大多数であり、日本医師会の意見の大多数は開業医の意見であります。女性医師の就業が困難な時期は20歳代後半から子育てのほぼ終了する30歳代後半までであり、日本全体として最も女性就労率の低下する時期(いわゆるM字の凹の時期)と同様な傾向にあります。この年齢層の女性医師はまだ開業前が多く、ほぼ勤務医師であると考えられます。この時期の女性医師に対する勤務環境整備は必須であります。この時期の女性医師の問題をとらえるには、日本医師会よりも、従来からこの問題に取り組んできた日本女医会が適していると考えます。
3. 日本女医会は2002年に創立100周年を迎えました。会員には開業している女性医師、勤務している女性医師、研究者など、また、出身大学も

日本全国に分布しております。理事会は開業医、大学に勤務する助教授、教授、名誉教授から構成されております。従って、開業下の女性医師の問題、勤務下の女性医師の問題には精通しており、出産、育児のため余儀なく家庭に入ってしまった女性医師の動向については、これまでも調査をして参りました。また、これら女性医師の環境の現状についてはすでに調査を終えております。女性医師の環境整備に関し、何が今必要であるかを最も認識しているのは、日本女医会であると言えます。

4. 日本女医会は、国際女医会発足時（1919年）より加盟団体として活動しており、他国の女性医師の勤務環境など、国際的視野での女性医師の環境整備に関して、いかなる情報も入手することが可能であります。尚、2007年から2010年までの国際女医会長として、日本女医会理事の平敷淳子埼玉医科大学放射線科教授が選出されております。
5. 働く女性が安心できる育児環境があつてこそ、子供を持ちたい、と切に考えるようになります。これは女性医師でも同様で、卒後何年かの研修後（学位取得も含めて）、一段落してからの挙児希望の女性医師が多いこともこれを裏付けております。少子化問題解決の一番の早道は育児環境整備にあると考えます。

#### 女性医師環境整備事業の実施内容

1. 大学病院、大病院での研修医並びに勤務医としての女性医師の環境整備の必要性

女性医師が、医学を研修しながら、育児、時には病児保育をしなければならない環境は、父親も休暇が取得できるとはいえ、未だ日本では母親に大部分の負荷がかかります。保育園の整備された大学病院は、東京女子医科大学病院以外にはなく、病児保育ができる大学病院保育園は東京女子医科大学保育園、東北大学病院のみというのが現状であります。

日本女医会では2004年度～2005年度の2年間、独立行政法人福祉医療機構の子育て支援基金の助成を受けて、病児保育の実態調査を行いました。本年は報告以外に今後への提案を行う予定になっております。

一旦仕事を辞めた後の再度就職というのは、気持的にハードルが高くなります。できれば仕事を辞

めない、辞めなくても継続できる方法を提案することがもっとも大事なことと考えます。そのために、まずは、保育園の整備（保育時間の延長を含む）、病児保育の整備をお願いしたいと思います。

2. 子育て期に職場を離れた女性医師の社会復帰について

子育て期の女性医師は日本医師会に属していない人が相当数おります（会費を払うだけの余裕もない時期、その恩恵を受けることがないと考えているために、会員にならないと思われまます）。

社会復帰するには、学問の進歩が特に顕著である医学界において、最新の医学・医療を再教育する場及び時間が必須となります。医療現場を離れる以前に属していた病院及び大学病院の医局内では、研修医として足手まといになっていた可能性のある女性医師のために、改めて再研修の場と時間の提供は、よほどの意識改革がなければ実現は難しいものと考えます。職場に比較的女性医師の割合が低い病院においては、ともすると、女性医師はコマンドとして扱にくい、というイメージが上部の医師に存在することは否定できません。

そこで、女性医師の教育に精通した、例えば、東京女子医科大学病院などをモデルにして、再就業研修の場をモデル的に始めるのが賢明であると考えます。

女性医師がこれまで男性医師と同等に仕事のできた大病院においての再就業研修のモデル構築を提案します。

---

### 百歳を迎えられた日野千代子先生をお訪ねして

---

荒川支部 加藤光子

1月27日は日野千代子先生の満百歳のお誕生日でした。私は当日お訪ねする予定でしたが、予期せぬ事で何えず、電話にてお祝いを申し上げました。千代子先生はお電話口に出られ、「はいはい、元気ですよ。遊びに来て下さい。お待ちしておりますよ」と本当にお若い声でお応え下さり、私はすぐにでもお伺いしたい衝動に駆られました。



後日、2月7日の午後お伺いしました。先生のお宅は私の家からは車で10分位、賑やかな通りに面

した素敵なお祝いの最上階でした。広い応接間に案内されましたが、お祝いの胡蝶蘭の鉢植えがとても美しく飾られておりました。先生はステッキを持たれ、花模様のフリル付きのブラウスと赤いカーディガンをお召しになり、にこやかにお出ましになりました。「まあ、よくいらっしゃって下さいましたね」とおっしゃって、椅子にお掛けになりました。私が「先生、百歳おめでとございます。本当に若々しく、とてもお年を感じさせませんね」と申し上げましたら、「食欲は申し分なく、痛むところもなく、只こちらが少々呆けてきました。駄目になったわ」とおっしゃりながら、ご自分の頭を指し示しておられました。「先生、呆けたとおっしゃいますが、先生のご年齢では当たり前のことと思います。私など先生のお年にはまだ20年もありますのに、もう忘れっぽくて困ってしまいます」と申して笑った事でした。日本女医会と東京都支部連合会の今昔についても少し先生に説明させて頂きました。すると、会長、副会長を始め皆様の名前を思い出して下さい、種々の経緯についてもご理解下さいました。

その後、私事でワールドクルーズへ行く話をさせて頂きましたら、熱心にパンフレットをご覧になり、「私の行ったところがほとんどよ」と寄港する都市名を挙げられていました。先生は昨年ご家族とラスベガスに旅行され、グランドキャニオンを見てきたと伺い、本当にお元気なことを痛感致しました。旅の話など楽しい一時を過ごしておりましたが、先生が「あなたどこへ行くの?」と尋ねられ、「世界一周ですよ」とお応えすると、「あら、そう」と先程の話はお忘れになったようでした。

私が日々診察をしていて感じられることですが、先生も「瞬間に生きておられるのかな」と頭をよぎりました。でも「百歳、百歳」と叫びたくなるほどお元気で若々しい先輩医師でした。私も現役で働いておりますが、後10年位は呆け防止のために頑張らなくては、と心を引き締めて先生のお宅を後にしました。

## 第1回「さいたま輝き荻野吟子賞」に平敷淳子先生

埼玉支部 深井登起子

埼玉県ではこのたび「さいたま輝き荻野吟子賞」が制定されました。本年2月3日第1回表彰式が行

われ、個人の部として平敷淳子先生がめでたく受賞されました。

この賞は埼玉県の偉人である日本公許女医第1号の荻野吟子先生の不屈の精神と努力の偉業を顕彰し、男女共同参画社会の推進に顕著な功績のあった個人、団体、事業所を表彰し、その功績を称えるものであります。昨年8月から10月まで公募を行い、私も選考委員会に委員の一人として参加致しました。それぞれの分野で立派な功績を挙げられている多数の方々の中から平敷先生が最高点で選ばれたことは、日本女医会員として大変嬉しく、誇らしく感じました。

先生は18年間埼玉医科大学放射線科主任教授として診療、研究はもとより、女子医学生の指導により多くの人材を育成し、役職に送り出したこと。海外の大学からの医学生の指導。国連 NGO 国内婦人委員会のメンバーとしての啓発。次期国際女医会会長など、多くの先駆的業績が認められました。授賞式には橋本葉子会長、埼玉医大大学長、理事長がお祝いに出席され、大変盛大でした。内閣府男女共同参画局、国立女性教育会館、NHK さいたま放送局、



表彰式の後に上田知事と記念写真



荻野吟子先生生誕地訪問。埼玉支部会員らと

テレビさいたま、埼玉新聞社など後援団体関係者でにぎわいました。

因みに昨年11月埼玉支部有志で吟子先生生誕の地を訪れ、顕彰碑に花束を捧げて参りました。すぐ

背後を流れる利根川の悠然たる流れの中から吟子先生の励ましの声を聞いたように思いました。

平敷先生本当におめでとうございます。今後のさらなるご活躍を心よりご期待申し上げます。

## ■ 支 部 ■ だ ■ よ ■ り ■

### 東京都支部連合会近況あれこれ

東京都支部連合会会長 中山年子

筑波科学博の年に誕生した支部連合会も結成から20余年が過ぎました。代々の会長、副会長のご努力と事務職員の絶大なご尽力があればこそと、常々感謝しております。今野信子元会長のご発案で役員会での「ミニレクチャー」が始められました。当時の学術部長竹宮敏子先生がご自身の研究の集大成とも言ふべき貴重な症例を分かりやすく説明され、質問にも快く応じてくださったので、素晴らしい卒後研修の場ができました。後任の斎藤加代子先生、渡辺博美先生もご自身の他に各方面から講師を依頼してくださり「ミニレクチャー」は日本女医会が学術集団であると認識する機会にもなっています。

最近には阪神・淡路大震災の災害救助に行かれた青木正美先生のご経験から災害時の対応と準備についての知識を授けていて頂いております。「狼少女」

と言われる程心配して、各方面の会議に出席して得たれた実話を元にしたお話は説得力があり、無防備な自宅に地震がおきたらいかにしたものか？反省と共に恐れおののきつつ勉強しております。ミニレクチャーは役員だけではもったいないので、奇数月の第三火曜日に京王プラザホテルで行っている定例役員会に是非お出かけください。専門外の知識が得られて日常診療に役立つこと、請け合いです。会員のみなさまのご参加は大歓迎致します。

今年の総会には人間国宝の中村富十郎丈に（芸談、楽屋話）をお願いしておりますが、懇親会には「萩江節」で踊って頂くことに致しましたのでお楽しみ頂けると幸いです。全ての企画及び運営は加藤光子先生、赤塚智香先生お二人のご努力と各区支部長の有形、無形のご援助によるもので感謝に絶えません。今年から選挙総会は2年毎に開催されることになりましたので、これを契機に東京都支部連合会の本来の使命はいかにあるべきか、再考してみたいと思うこの頃です。

## 人間国宝・中村富十郎丈 —— 講演のご案内

東京都支部連合会副会長 赤塚智香

明晰な口跡、美しい動き、間のうまさなどで知られる、ご存知「人間国宝・中村富十郎」丈が日本女医会の総会でご講演下さることになりました。

世話物の写実的な芸、颯爽とした荒事の芸、格調高い古典の芸、などの時代物から現代的な新作まで幅多くの数々の名舞台を残しておられます。

「勸進帳」の舞台では中村吉衛門丈の弁慶を相手の息詰まるような対決場面で、中村富十郎丈演ずる富樫役は孤立無援の状況で凛とした中にも情のある演技は深く胸を打ち、その名場面は多くの感動を呼びました。

また踊りに関しては、日本の舞踊家の中でもその傑出した実力は天才的といわれています。

この度、その富十郎さんに生出演して頂くという二度とない幸運を頂きました。豊富な芸歴の中から特に医師に因んだ舞台のお話しをして下さるとのことでございます。どうぞご期待下さいませ。

できるだけ多くの会員の皆様にご参加して頂きたくお願い申し上げます。

### 中村富十郎丈プロフィール

昭和 47年 9月 歌舞伎座で「逆櫓」樋口、「娘道成寺」で五代目中村富十郎を襲名

### 受賞の記録

昭和 47年 9月 芸術選奨文部大臣賞（ひらかな盛衰記、逆櫓 歌舞伎座）

55年 10月 第35回芸術祭最優秀賞（船弁慶 歌舞伎座）

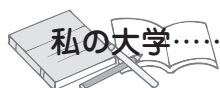
62年 6月 芸術院賞（61年度）

平成 2年 4月 紫綬褒章

6年 6月 重要無形文化財認定（人間国宝）

8月 11月 日本芸術院会員認定

15年 11月 旭日中綬章



## 私の大学……大阪医科大学

大阪第8支部 高井七重

私の所属しております大阪医科大学は「医師を作る前に先ず人を作る」、「移民対策としての海外発展を目指す」、「学の蘊奥も大切だが、実用に耐える医師を作る」を建学精神に昭和2年吉津度先生により創設されました。吉津度先生はその遺言にて病理解剖、臓器及び骨格も標本として遺されています。

当大学は大阪府高槻市に位置しています。高槻市は弥生時代の環濠集落で有名な安満遺跡群として、平成9年に「青龍3年」の年号が見える方格規矩四神鏡が発見された安満宮山遺跡や藤原鎌足の墓とされる阿武山古墳、継体天皇の陵墓とされる今城塚古墳など多くの古蹟が点在する土地で、また戦国時代のキリシタン大名高山右近が高槻城と聖堂を建てた城下町でもあります。前身の大阪高等医学専門学校は昭和2年大阪市東淀川区下新庄に仮校舎が建てられましたが、手狭になり昭和3年府下三島郡磐手村古曾部に大阪の大丸デパートや西宮の関西学院大学など関西で2千棟に及ぶ洋風名建築を残したW.M. ヴォーリズの設計による『サラセン式』洋風建築の学舎が建ちました。その歴史的文化的価値の大きな、高槻市の象徴とも言える学舎の周辺は面影を残しながらも年々姿を変えています。特に平成2

年に12階建ての総合研究棟が竣工し、平成6年には近代的な図書館、本館ができたことによりその印象は大きく変わりました。

当大学の教養過程はさわらぎキャンパス、以降の過程は本学キャンパス（附属病院等と同じ）とやや離れた場所で教育がされていましたが平成17年にはさわらぎキャンパスも本学キャンパスに移転しました。また附属病院においては平成17年に7号館ができ、おおがかりな医局や病棟の移転などがされています。

現在大阪医科大学でも他の大学と同様に女子学生が増えています。20年前の昭和61年には入学者の27.6%でしたが、近年はさらに増加傾向で平成10年には45%となりました。昨年の平成17年は35.6%でした。常勤の女性医師は平成17年4月に32名、非常勤は213名合計245名となっています。医師でなくともそうですが、女性が続けて働く上で育児支援が最も重要な課題となってきます。このような現状を受けていままでも医師には門戸が開かれていなかった病院の保育所が、附属病院の職員という制限はありますが入所可能となりました。今後我々もいままでも苦勞し頑張っただけの先輩方のようにたゆまぬ努力をし、理解を広げていくことが重要と考えています。

## 单身留学体験記

Harvard School of Public Health, Master of Public Health

山口支部 大村佳代

市中病院で内科医として働いている時より、患者さんの予後を左右するのは病院での治療だけではなく、社会的要因・経済的要因も大いに関係してくるということを経験上感じており、それが、公衆衛生に興味をもつきっかけとなりました。学生時代から漠然と一度は海外で生活してみたいという希望もあり、アメリカの1年間の公衆衛生プログラムへ申し込みましたが、留学前の準備が一番大変だったのが夫の説得でした。財政的な理由や夫の仕事の都合などで夫婦二人での渡米はほぼ無理であったため、1年間の別居になります。それまで日々の仕事に追われて、(将来は)なるようになると思っただけでなかった私達にとって、留学準備から帰国後のことま

ですべて自分で decision making しないと行けないこの時期は、自分の希望や相手の将来への考えをはっきりさせる時期でもありました。

1人の患者に全力投球する医学と異なり、集団全体の健康を考え（この場合、集団と個人の利害が衝突することがある）、しかも使える資源（お金、人、医療資源すべて）が限られていることが多い公衆衛生。——限られた財源をどこに使うのか？低所得者の臓器移植、それとも小児のプライマリ・ケアの充実？集団全体の健康のために、個人の権利は制限できるのか（タバコ、アルコール、感染症患者の隔離）？——必修科目である倫理では、このような質問に対して様々な文化圏、バックグラウンド（医療関係者・疫学者・弁護士・消防士…）の学生が討論します。唯一の答えはなく、意見がまとまらないことも多々あります。いろいろな立場や利害関係があるということを知る、それが（公衆衛生だけでない）実社会での問題解決の糸口になることを学びます。

留学するにあたっては、留学の目的を明確にする



こと、英語準備と自分の勉強（研究）分野の準備は必須と考えます。秋学期には主に疫学・統計学の入門で、講義を中心とした授業で基礎を学びます。予習のための文献の量も半端ではありません。数十ページ～多いときで100ページを超えることもあり、それを前日に読むことを要求されます。留学生が多いため、教官は比較的是っきりした英語をゆっくり話してくれますが、討論になると学生の言うことが聞き取れず呆然としてしまうこともしばしばです。残念ながら、留学したからといって、英語が上達することはまずありません。

春学期からは、授業の内容も高度になります。知識だけではなく、プロジェクトを通して、公衆衛生のプログラム（研究・調査・介入）をorganizeす

ることも学びます。実際のところ、毎日が課題・宿題・予習の締め切りに追われる状態です。本格的な授業が始まる直前、ある教官が言いました。「これからの授業で、膨大な課題を出されるだろう。実社会でも責任のある立場になれば、仕事は山積みで、すべてこなすことは不可能に近い。リーダーとして求められる素質は、やるべきことに優先順位を付けて、本当に必要なものにはエネルギーを注いで、そうでないものはそれなりにこなすことが要求されるだろう」。優先順位をつけること（prioritizing）は働く女性にとっても重要なことではないかと思っています。この留学も残りわずかですが、いろいろな意味で収穫は大きいと信じています。



## 私の好きな 食べ物やさん②

港支部 二村美美江

銀座に出かけた時に寄るお店、3軒とも予約は基本的には要りません。

### ①三河屋（洋食）

11:30～20:30 (Tel: 3561-2006)

三越銀座店の1本裏、三越の裏手出口を出た向かい側、2階建て、蔦におおわれている家庭的フランス料理です。一品が我々にはボリュームがあるから、「半分ずつ分けてください」と二人で行く時は注文を出します。

コンソメ、前菜、メインディッシュ、食後のデザート（これがなかなか豪華、半分か丁度良い）、主食はパンかご飯か聞いてくれます。ご飯につくぬか漬けのお新香が美味しい。箸を希望すること。パンも2種盛って出てきますが、美味しいです。

メインディッシュで私が好きなのが、仔牛のカツレツ、クリームのコロッケ、季節ではカキフライ。皆さんはやはりローストビーフとおっしゃいます。一人前ずつ召し上がって2万円にお酒代（グラスワインも美味しいです）も加算されますが。

### ②銀之塔（牛タンシチューの店）無休

11:30～20:30 (Tel: 03-3541-6395)

歌舞伎座の昼の部がはねた時に急いでいきます。早く行かないと満員になって畳の席になり、膝が痛みます。

歌舞伎座を出て左へ、二つ目の辻を左に入った左

側、紺のれんが下がっています。ここのおすすめは牛タンシチューとグラタンです。近頃、シチューとグラタンのミニセットというのがあって2,800円です。シチューはタンか肉かと聞かれますから、両方を入れてとって下さい。土鍋でくつくつ泡立つ熱いのが出てきます。その前に2～3品の小鉢（きりぼし、きんぴら等）があるので、そこでビールなど注文してしまいますと、シチューの半分位で満腹になりますからご用心。

あらかじめ電話をしてシチューのおみやげを頼みますと、独特のタレが別に包まれて、家で「じゃがいも」や「にんじん」のゆでたのを追加して結構一家5人前位に、2人前の注文で召し上がれますよ。私は生がきの季節ですと、シチューのタレだけ煮立てておいて、かきを生だきで頂いてから、牛や牛タンを入れていきます。

### ③銀座竹葉亭（うなぎ屋）

11:30～14:30、16:30～20:00 (Tel: 3571-0656)

4丁目の三越の前を渡った交叉点角から三軒目、午後8時がオーダーストップです。

築地竹葉亭より気軽に入れます。うなぎは東京のどこへ行っても美味しいけれど、このお店は私の大好きな鯛茶があります。一人前1,800円で、ごまだれがたっぷりの鯛のうす切りが出てきますが、私はお茶漬けにする前にこれで一杯頂いて、あと半分位を熱いご飯の上に乗せ、熱い番茶をかけて、鯛の身が少し白くなった頃、サラサラと頂きます。書いていても唾液が出てしまいます。別皿で白いごまとあたり鉢、わさびが付いてくるのも楽しめます。

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

## 書評

**My life work**

公衆衛生に夢かけて

加藤 竺子 著

梓書院

2006年1月10日発行  
1,500円(税込)

この本は日本女医会副会長の加藤竺子先生が書かれた自伝です。2006年(平成18年)80歳になられた先生は、昭和年代から平成にかけて、激動の時代を生きられ、「女性初の」いろいろの仕事を成し遂げられました。先生の前向きに生きる姿が伝わり、読者はたくさんの「元氣」をもらうことができます。

先生の故郷は大分県竹田市です。医者七代の家系で、お兄様は九州帝国大学臨時附属医専在学中にパラチフスにかかり、23歳で早逝されました。先生は小さい時から医者になるのだと思い込んでおられたそうです。竹田時代の茶の湯を愛した豊かな文化的な生活は、先生の生涯の宝です。

帝国女子医専時代は苦難の第二次世界大戦中でしたが、無事卒業し女医としてスタートしました。戦時中の学生の生活状態、敗戦の状態がよくわかる興味深い部分です。

九大第三内科に入局され博士論文をまとめられました。英語はよく勉強されていたので外国人の友人もたくさんおられました。九大の産婦人科医河村義徳さんと結婚されたのは27歳のときです。

夫婦でアメリカに留学して、3人の子供を育て、保健所に就職して、公衆衛生に目覚められました。福岡市の初の女性衛生局長となられ、保健と福祉の連携につとめられました。また平成3年福岡市助役に起用され、政令指定都市で初めての女性助役となられました。衛生、民生、環境を担当され核となる施設「あいれふ」を作り、健康づくり財団の理事長も兼務されました。たくさんの国際交流にもつとめられ、大きな働きをなさり、平成9年勲四等宝冠章を受賞されました。

日本女医会副会長として平成9年より現在に至るまでの御活躍は皆様よく御存知の通りです。また平成17年、日本医師会最高優功賞を受賞されました。

この本には、たくさんの興味深い写真が載っています。加藤先生はいつも笑顔で生き生きと元気いっばいの姿で写っています。特に表紙の笑顔の写真は魅力的で、誰でも先生が好きになる不思議な力を持っています。

是非御一読下さい。

理事 大坪公子

**厚生労働省より平成18年度「児童福祉週間」のお知らせ**

厚生労働省では毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、この期間中に広く関係機関・団体の協力により、全国各地で児童福祉の推進のための各種の啓発事業および行事が展開されております。

ついてはこの啓発活動についてより多くの理解と協力をお願い致します。

平成18年度「児童福祉週間」概要

**1 趣旨**

国および地方公共団体、家族、福祉関係機関、児童福祉施設、地域社会等社会全体が一体となって、各種の啓発事業及び行事を展開することにより、児童福祉

の理念の一層の周知と児童問題に対する社会的関心の喚起を図るものである。

**2 主唱**

厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(財)こども未来財団

**3 標語**

「大切だよ 信らいすること されること」(公募により選定された作品)

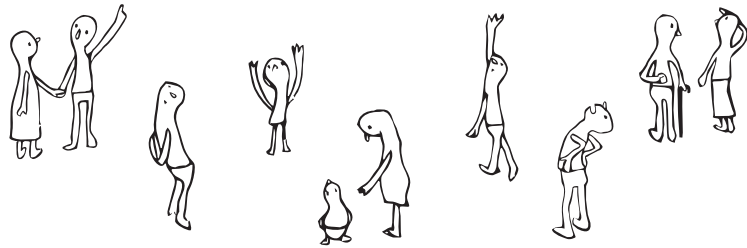
**4 期間**

平成18年5月5日(金)より5月11日(木)までの一週間

うれしいを、つぎつぎと。

**KIRIN**

未来を拓く。



本当に求められている「こと」や「もの」。  
医療のニーズを正しく把握し、  
バイオ技術の追究を通じて、夢を現実にしていく。  
キリンは、新たな医療価値の創造に  
全力で取り組んでいます。

**キリンビール株式会社 医薬カンパニー**

〒150-8011 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号  
<http://www.kirinmile.com/>

# 隔壁を開通してから使用すること



高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン液

指定医薬品、処方せん医薬品\* 薬価基準収載

## ネオパレン® 1号

\*：注意—医師等の処方せんにより使用すること

指定医薬品、処方せん医薬品\* 薬価基準収載

## ネオパレン® 2号

\*：注意—医師等の処方せんにより使用すること

NEOPAREN®

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



販売提携  
**大塚製薬株式会社**  
東京都千代田区神田司町2-9

製造販売元  
**株式会社 大塚製薬工場**  
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

資料請求先  
**株式会社 大塚製薬工場 学術部**  
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-6 司町ビル3F

(05.10作成)

薬価基準収載



劇薬  
指定医薬品  
要指示医薬品

## アミノグリコシド系抗生物質製剤 ハベカシン® 注射液

### HABEKACIN® INJECTION

日抗基 硫酸アルベカシン注射液

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は  
製品添付文書をご参照ください。

(資料請求先) **Meiji 明治製薬株式会社**  
104-8002 東京都中央区京橋2-4-16

作成：2000.1

# ((( 理事会議事録 )))

**日 時:**平成 17 年 12 月 17 日 (土)  
午後 3 時 00 分  
**場 所:**(社) 日本女医会会議室  
**出席者:**橋本、石原、加藤、鹿田、内湯、大坪、澁谷角田、中山、濱田、船越、松井、森川、山崎 (ト)、山崎 (康)、山本 (續)、山本 (蒔) (以上 17 名)  
**欠席者:**古賀、斎藤、澤口、平敷、村田、川田、橋川 (以上 7 名)

庶務報告 / 会計報告 / 各部報告

## 議 題

1. 日本女医会吉岡弥生賞選考規定、日本女医会荻野吟子賞選考規定の件
2. 平成 18 年度理事会開催日について
3. 各賞選考委員会開催日の件
4. その他

11 月理事会議事録を承認

## 報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 森川理事  
平成 17 年 11 月分収支別紙どおり報告、

承認される。  
3. 各部報告

**【広報部】** 山本(蒔)理事  
1 月 25 日発行予定の会誌 185 号の原稿を準備中。1 月 13 日に編集会議を開催。

**【橋本会長より】**  
先日来厚生労働省から打診のあった「人材バンク」が日本医師会に委託する旨話があった。日本医師会へその経過を聞くなどして、日本女医会も関与できる方法を講じるべきとの意見も多数出され、何らかの形で連絡することに決定。

**【山本(蒔)理事より】**  
12 月 8 日に子育て委員会のヒアリングが仙台、東北大学病児保育施設と宮城支部鈴木先生の所で行われたとの報告。

**【大坪理事より】**  
皇后陛下お言葉集『あゆみ』が宮内庁侍従職監修により発行された旨の報告。日本女医会百周年記念式典の時のお言葉がそのまま掲載されている。

## 協議事項

1. 日本女医会吉岡弥生賞選考規定日本女医会荻野吟子賞選考規定の件 (資料 1)  
先月理事会で検討し、修正された資料を再検討。両規定とも第 4 条と第 5 条をまとめる。荻野吟子賞第一条は「女医の地位向上に著しい貢献」をやめ「社会に著

しい貢献」に改める。

2. 平成 18 年度理事会開催日について (資料 2)  
11 月理事会で決定した開催日を再確認。

3. 各賞選考委員会開催日の件  
本日まで吉岡弥生賞「社会へ貢献した部門」へ 2 人、「地域医療奉仕活動に対する助成」へ 1 人の推薦がある。選考委員会は 1 月理事会開催日 (1 月 28 日) の 14 時からとする。

4. その他
  - ・「名簿記載項目についてのお問い合わせ」の件 (資料 3)  
先月理事会で検討された「お問い合わせ」で承認。より注意を引くように日本女医会誌に掲載し、また別刷りを会誌と共に送付する。
  - ・「大学連絡係」の件 (資料 4)  
大学に付属の施設があるので、それぞれの施設にも「連絡係」お願いしてはとの意見があったが、前向きに検討。候補のいない大学をもう一度見直しをして、それぞれで打診してみる。
  - ・「慶甲規定」の見直しを検討、次回理事会に諮る。
  - ・「プラメド」から“女性医師の活躍に向けての Web 討論会”の提案 (資料 5)




## Humalog Family

抗糖尿病剤
創薬 / 指定医薬品 / 処方せん医薬品\*  
\*注意: 一部降糖剤の処方せんにより使用すること
薬価基準収載

**ヒューマログ**® 注カート  
注キット  
注/バリエール100単位/mL

Humalog インスリン リスプロ(遺伝子組換え) 注射液

**ヒューマログ**® **ミックス 25** 注カート  
注キット 新発売

Humalog<sup>25</sup> インスリンリスプロ混合製剤-25 注射液

**ヒューマログ**® **ミックス 50** 注カート  
注キット 新発売

Humalog<sup>50</sup> インスリンリスプロ混合製剤-50 注射液

**ヒューマログ**® **N** 注カート  
注キット 新発売

Humalog NPL 中間型インスリンリスプロ 注射液

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

INS-A039 (P1)  
2005年4月改訂

製造販売元 <資料請求先>  
**日本イーライリリー株式会社**  
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers リリーアンサーズ (医療関係者向け)  
日本イーライリリー 医薬情報問合せ窓口  
www.lillyanswers.jp

**0120-360-605** \*1  
受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30 \*2  
\*1 通話料は無料です。携帯電話、PHS等でもご利用いただけます  
\*2 祝祭日及び当社休日を除きます

Lilly

について広報の協力があり、女医会誌へ同封するか否か検討したが、内容をもっと明確にもらってから協力する。

以上

**日時**：平成18年1月28日（土）  
午後3時00分  
**場所**：日本女医会会議室  
**出席者**：橋本、石原、加藤、鹿田、内潟、大坪、古賀、澤口、澁谷、角田、中山、船越、平敷、松井、村田、森川、山崎（ト）、山崎（康）、山本（蒔）、川田（以上20名）  
**欠席者**：斎藤、濱田、山本（纈）、橋川（以上4名）

庶務報告／会計報告／各部報告

**議題**

1. 第51回定時総会の件
2. 平成18年度事業計画案及び予算案の件
3. 日本女医会吉岡弥生賞選考規定、日本女医会荻野吟子賞選考規定の件
4. 特別会計の件
5. ホームページ契約の件
6. その他

12月理事会議事録を承認

**報告事項**

1. 庶務報告 角田理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 森川理事  
平成17年12月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告

**【渉外部】** 澤口理事  
総理府・男女共同参画局主催男女共同推進連携会議「女子差別撤廃条約実施状況第6回報告書に盛り込むべき事項について聞く会」に出席の報告

**【広報部】** 大坪理事  
日本女医会誌185号を発行。会誌の内容、広告掲載について意見を求めた。  
今後も広告掲載の選択は広報部に一任する事に決定。

**協議事項**

1. 第51回定時総会の件
  - ・5月20日（土曜日）に開催。選挙の有無により時間が決まるので、最終のスケジュールは3月の理事会で決定。
  - ・講演会の講師について検討する。第一候補として、川田監事の妹さんの「山本富士子さん」に伺ってみる。庶

務部で交渉。

- ・選挙実施、2年毎の東京での開催は、東京都支部連合会にとり負担が大きいため、如何に開催地を決定すべきか、今後検討する。

2. 平成18年度事業計画案及び予算案の件  
2月理事会の一週間前（2月17日まで）までに各部で事業案・予算案を作成し、本部事務局まで提出すること。
3. 日本女医会吉岡弥生賞選考規定、日本女医会荻野吟子賞選考規定の件  
昨年11月理事会以来検討している規定（案）について、角田理事より別紙（資料1）の説明があり決定する。改訂日を入れ本部で保存する。

4. 特別会計の件  
森川理事より解説があった。
  - ・特別何かのための会計、一つのイベントの収支を別会計にしたものである。
  - ・現在ある「吉岡弥生賞会計」、「国際女医会議事業基金会計」、「ボランティア基金」が設立された経緯について説明がある。
  - ・橋本会長より「使えない基金」について、説明を求められる。
 「国際女医会議事業基金」は当時の一般会計より656万円が繰り入れられてつくられたので、それを今一般会計に戻すことも可能である。
  - ・今後、国際会議は2008年の西太平洋地域会議であり、その後しばらく開催予定がなく、基金の4千万円が使用可能か、顧問会計士の長嶋先生に伺い、来月理事会で報告。

5. ホームページ契約の件  
現在の所出来高払いでユートさんに依頼しているが、まず1年間だけ年間契約（月額1万円）する事で決定。

6. その他
  - ・橋本会長より、本日理事会前に開催された各賞選考委員会での選考結果の発表があった。  
吉岡弥生賞・医学に貢献した会員は清水夏繪会員（千葉支部）、社会に貢献した会員は松本文絵会員（京都支部）と嶋崎紀代子会員（山梨支部）。  
学術研究助成には6名の応募があり、上田嘉代子会員（東女医学内支部）、塚田弥生会員（文京支部）、増子佳世会員（都下西支部）の3名。地域医療奉仕活動に対する助成は原 弥栄子会員（神奈川支部）に決定。
  - ・「慶弔規定（案）」について（資料2）に基づき澁谷理事より説明があり、再

検討した。再修正し、次回理事会に提出。

- ・来年度開催の市民公開講座への助成申請が1件ある。今年度はまだ1件も開催されず予算も使っていないので、会計上の不都合がないのなら今年度の予算より助成する事に決定。
- ・内潟理事より  
高木美智代代議士の助言による、猪口邦子少子化・男女共同参画担当内閣府特命大臣へ「女性医師環境整備事業に対する要望書」（資料5）を提出するか討議し、全員賛成で提出を決定、資料を参考に内容を検討する。修正後に大臣に直接提出する。提出時には多数理事の同行を要請。
- ・以前に「10代の性と健康」ビデオの一部を自作のDVDに使用を希望した埼玉の養護教諭から作成したDVDの送付があった。
- ・平敷理事より、「韓国女医会50周年記念式典」に出席の報告。第1回「さいたま輝き荻野吟子賞、個人の部」に受賞された旨の報告。

以上

**日時**：平成18年2月25日（土）  
午後3時00分  
**場所**：(社)日本女医会会議室  
**出席者**：石原、鹿田、加藤、内潟、大坪、古賀、斎藤、角田、中山、船越、平敷、濱田、松井、村田、森川、山崎（ト）、山崎（康）、山本（纈）、山本（蒔）、川田（以上20名）  
**欠席者**：橋本、澤口、澁谷、橋川（以上4名）

庶務報告／会計報告／各部報告

**議題**

1. 平成18年度事業計画案および予算案
2. 特別会計の件・続報
3. 第51回定時総会の件
4. その他

1月理事会議事録を承認

**報告事項**

1. 庶務報告 古賀理事  
別紙どおり報告、承認される
2. 会計報告 船越理事  
平成18年1月分収支別紙どおり報告、承認される
3. 各部報告

**【広報部】** 山崎（康）理事  
・会誌185号は1月末に発行、送付済み。会誌186号「各部報告」の原稿執筆を依頼。

## 【渉外部】

- ・松井理事より2月2日、自由民主党主催「各種団体との新春懇親会」に出席の報告
- ・中山理事より2月6日、国連 NGO 国内婦人委員会主催「第60回国連総会報告会」に出席の報告

## 【内務理事より】

- ・2月24日、要望書「女性医師環境整備事業」を持参、浜四津公明党代表代行等公明党女性議員と面談の報告。

## 協議事項

1. 平成18年度事業計画案および予算案
  - ・各部から提出した予算案の説明があった。
  - ・庶務部予算は全てブロック別懇談会である。昨年来結論の出していない出席理事の交通費について検討する。ブロック別懇談会は予算決定時には開催地と出席者が未定のため例年、予算を決定できない。上限を決めて予算申請する等の意見が出されたが、決定するに到らなかった。
  - ・退会者が多く会員減少に歯止めがかからない。如何に会員増進をするか、再度検討する。
2. 特別会計の件・続報
  - ・森川理事より、先月理事会報告した「特別会計」の説明が改めてあった。

一般会計より「国際女医会議記念基金」へ支出した650万円は何時でも、またどの基金でも会員総意の決定があれば、使用可能である。

## 3. 第50回定時総会の件

- ・講演会の演者について鹿田副会長から説明

先月候補にあがった山本富士子さんは都合がつかずキャンセルになった。

当日懇親会の前に舞踊をお願いしている中村富十郎さんに講演会を依頼。お話しの内容はおまかせする。

- ・立候補締切は3月21日であり選挙の有無は分からないので、時間配分等次回理事会で決定する。

## 4. その他

- ・会員増強について

①何事にも興味を示さない若い人達に如何に日本女医会を知ってもらうか、各支部での活動、各地域での動きの紹介があった。

②斎藤理事より、各医科大学のホームページに日本女医会ホームページをリンクできるように依頼してはどうかとの意見が出され、全員賛成で決定。広報部で行う。

③他の女性医師の団体と協力してネットワーク作りをしては、との意見も

出された。

- ・角田理事より、12月理事会来検討してきた「役員慶弔規定」の最終確認をする。
  - ・平敷理事より、「“ねむらせないで！医師免許を”プロジェクト（案）（資料3）の説明。月5万部発行数のある月刊誌「ドクターズマガジン」のメディアカルプリンシプル社（MP社）との協力で、途絶えていた「人材バンク」再開の計画。3月理事会前にMP社と面談をする事に決定。
  - ・斎藤理事より、独立行政法人福祉医療機構・子育て支援基金の助成による「働く女性のための育児環境整備支援事業」が平成16年度の「特に評価の高い約20事業のうちの一つの候補になっている」との知らせがあった、との報告。また全国版読売新聞に掲載される独立行政法人福祉医療機構の広告の中でも紹介される。
  - ・大坪理事より、独立行政法人福祉医療機構・長寿社会福祉基金へ平成18年度事業として申請した「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」に関し、厚生労働省を通じ照会があったとの報告。協力を依頼できる団体についてみんなの意見を出し合った。
- また、加藤副会長著書「My life work」の紹介があった。以上

# 本づくりの ベストパートナー

医学・看護・リハビリテーション・精神医学・心理学・社会福祉 etc.....  
 専門書のあらゆるジャンルをサポートして70年。編集、校正、印刷、  
 製本まで、経験豊富なスタッフが本づくりのお手伝いをさせていただきます。  
 お気軽にご相談ください。  
 学会誌、会報、退官記念集など各種出版制作のご相談も承ります。

あづま堂印刷株式会社

〒131-0046 東京都墨田区京島 3-68-14  
 tel : 03-3613-6111 fax : 03-3613-4598  
 e-mail : daihyo@adumado.com

## 会員動静 (2006年3月26日現在)

入会	退会	合計
大本 由樹 (平3年卒) 千 葉 海老原孝枝 (平2年卒) 宮 城 池田 啓子 (昭62年卒) 栃 木 佐藤加代子 (昭63年卒) 練 馬 今枝 美穂 (昭62年卒) 愛 知 山下 泉 (昭55年卒) 富 山 浅見 豊子 (昭59年卒) 佐 賀 橋野かの子 (昭63年卒) 佐 賀	25名 野沢 京子 (昭22年卒) 北 海 道 和頼美和子 (昭10年卒) 千 葉 宮尾 巴 (昭18年卒) 滋 賀 三澤 三代 (昭7年卒) 山 口	

## 国際女医会議からのお知らせ

### 〈フォーラム10〉30歳未満のプロフェッショナルの意見交換—病気と闘い健康増進すること—

健康リサーチのグローバルフォーラムと雑誌「ランセット」は2006年10月29日から11月2日までエジプトカイロで開催される2006年度健康リサーチのグローバルフォーラムの年次集会において、第1回の上記の会をジョイント開催することになりました。

**興味のある若手プロフェッショナルは是非参加して下さい。**  
**詳細は <http://www.globalforumhealth.org> をご覧下さい。**

ナショナルコーディネーター 内潟 安子

## 社団法人日本女医会 第51回総会のお知らせ

総会まであと1ヶ月足らずとなりました。諸先生にはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

第51回総会を左記のように開催致します。

本年は役員改選の年ですが、立候補者が定員内でしたので選挙はございません。しかし、会長、副会長の互選がございますので、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日時▶平成18年5月20日(土)	舞 踊 17:00 ~ 17:30 (南館4階:錦)
場所▶京王プラザホテル	・荻江節「竹」 立ち方 中村富十郎丈
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1	・父子鷹トーク「歌舞伎の芸」
電話 03-3344-0111	出演 中村富十郎丈 中村鷹之資さん
評議員会 10:00 ~ 11:30 (47階:あけぼの)	懇 親 会 18:00 ~ 20:00
総 会 12:30 ~ 15:00 (南館4階:錦)	(43階:スターライト)
(選挙も含む) 登録費:3,000円	会費:12,000円
講 演 会 15:30 ~ 16:30 (南館4階:錦)	※京王プラザホテル宿泊ご希望の方は日本女医会事務局までご連絡くださいませ。
人間国宝に聞く「お医者さまと私の舞台」	社団法人日本女医会/東京都支部連合会
演者 中村富十郎丈	(☎:03-3498-0571 FAX:03-3498-8769)

### 編集後記

今回は3年間の各部活動の総括、子育て支援基金助成によるシンポジウムからの講演をふくむ多数の報告、「さいたま輝き萩野吟子賞」の第1回が平敷理事に与えられた記事、日本女医会として喜ばしいことです。二村先生の独特の語り口による「私の好きな食べ物やさん」の記事にはほっと和まされます。第51回に日本女医会総会のプログラムは是非ご一読下さい。その他「単身留学記」「百歳の先輩を訪ねて」、書評は大坪理事の担当で加藤副会長の著書『My life work』の紹介です。表紙に載った先生の写真をみると思わず元気が出ます。大型連休ゴールデンウィークも間近です。緑の光が野山・街に溢れる良い季節です。診療の手を休め、思いきり大きく伸びをしましょう。(山崎康子)

## 日本女医会誌

復刊第186号 2006年4月25日発行  
 編集人 大坪公子  
 発行人 橋本葉子  
 制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
 ☎150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
 Tel 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>  
 e-mail: office@jmwa.or.jp